

Part 1 18:00-19:30 基調講演

# ART x GENDER

## 女性アーティストは例外的存在か



ケイティ・ディープウェル  
(フェミニストアート評論家 / 英国ミドルセックス大学教授)

Universals and Others:  
The Problems of Exceptions and Exceptionalism

Part 2 19:40-21:00 パネルディスカッション

# DIVERSITY x TOKYO GEIDAI

## 自分とダイバーシティ



岡本美津子  
(副学長・映像研究科教授) \*兼司会



ミヒャエル・W・シュナイダー  
(美術学部絵画科准教授)



福中冬子  
(音楽学部楽理科教授)



毛利嘉孝  
(国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻教授)

2017

10月24日(火)

18:00-21:00

(開場 17:30)

日英同時通訳あり

入場無料



東京藝術大学 上野校地  
美術学部第1講義室(中央棟1F)

<http://diversity.geidai.ac.jp>

主催・お問い合わせ先：東京藝術大学 ダイバーシティ推進室 [diversity@ml.geidai.ac.jp](mailto:diversity@ml.geidai.ac.jp)  
平成29年度文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)  
東京藝術大学130周年記念(公式プログラム)



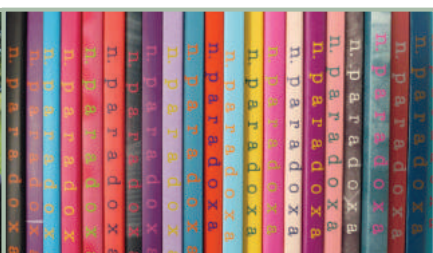
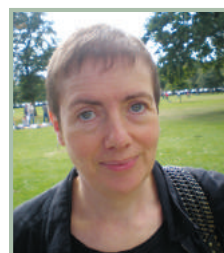
# あらゆる個性の持ち主が集う場所、東京藝大。 その多様性、強みをもっと活かす方法を考えます。

## Part 1 18:00-19:30 基調講演

### 「女性アーティストは例外的存在か」

#### Universals and Others: The Problems of Exceptions and Exceptionalism

女性の芸術家、女性による芸術作品は長らく、社会においてマージナルな存在でした。20世紀のモダン・ポストモダンの時代から21世紀の今日まで、それらがどのように見られ、どのように論じられてきたかを振り返ることで、芸術におけるダイバーシティとは何かを考察します。



ケイティ・ディープウェル Katy Deepwell  
フェミニストアート評論家/英国ミドルセックス大学教授

現代アートとフェミニズムに関する雑誌「n.paradoxa: international feminist art journal」創刊編集長。この20年間で計40巻が刊行されている同誌は、80カ国400人以上のアーティストが寄稿し、2007年のドクメンタ12にも出展された。2017年、世界中の人が無料でフェミニズムと現代アートについて学ぶことができる公開オンライン講座(<http://nparadoxa.com>)を開講。2013年からミドルセックス大学アート&デザイン学部で美術史、美術理論を教える。ロンドン在住。

#### 主な著作:

*All-Women Art Spaces in Europe* (Liverpool University Press, 2018刊行予定)  
*Feminist Art Manifestos: An anthology* (KT press, 2014)  
*Women Artists between the Wars* (Manchester University Press, 2010)

*Gender, Art, Theory Anthology* (in Russian, Moscow: Rosspen, 2005)  
*Dialogues: Women Artists from Ireland* (IB Tauris, 2005)  
*Women Artists and Modernism* (Manchester University Press, 1998)  
*New Feminist Art Criticism* (Manchester University Press, 1995)

## Part 2 19:40-21:00 パネルディスカッション

### 「自分とダイバーシティ」

自分にとって理想的なダイバーシティのあり方とは？ 大学を構成する四つの学部・研究科の教員が、それぞれの専門分野における経験や知見をもとに語り合います。

#### 岡本美津子 Mitsuko Okamoto 副学長(国際・ダイバーシティ推進担当)・映像研究科教授



1987年NHK入局。2008年東京藝術大学教授就任。2017年より現職。  
主なプロデュース・番組に、  
「デジタル・スタジアム」(2000-2006)、  
Eテレ月～金放送中の「2355」「0655」(2010-)、  
Eテレ「テクネ～映像の教室」(2011-)。  
主なプロデュース・イベントに  
「デジタルアートフェスティバル東京」(2003-2005)、  
「東京藝術大学ゲーム学科(仮)展」(2017)など。

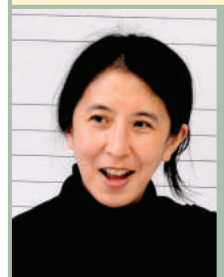
\*司会

#### ミヒャエル・W.シュナイダー Michael W. Schneider 美術学部絵画科准教授



オーストリア生まれ。ウィーン造形芸術大学および東京藝術大学に学ぶ。1990年から木版画の技術を用いた作品を中心に制作。従来の木版画用彫刻刀の代わりに自然の中で見つけた石を用い、木版を叩いて制作する手法を編み出す。また日本留学時代以来、墨、顔料、グラファイトなどの水性素材で彩色を施すようになった。2005年、コンピュータ技術を用いた毒性のないグラフィック印刷技術の研究でテオドール・ケルナー賞を受賞。版画の学術誌「im:print」の創刊編集長、「Um:Druck」の編集者。

#### 福中冬子 Fuyuko Fukunaka 音楽学部楽理科教授



国立音楽大学器楽科ピアノ専攻を経てニューヨーク大学人文大学院博士課程(音楽学)にて博士号を取得。研究領域は20・21世紀音楽。近年は大戦後オペラ創作や、冷戦と音楽の相互関係性について研究。主な論文・著書に *Wolfgang Rihm: Interpretive Examination of His Creative Sources*、*Japanese Zero Hour?* (*The Music of Japan Today*)、*"Narrative, Voice, and Reality in the Operas by Hosokawa Toshio and Mochizuki Misato"* (*Vocal Music and Contemporary ry Identities*)、*「ニュー・ミュージコロジー」* など。

#### 毛利嘉孝 Yoshitaka Mōri 国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻教授



社会学者。メディア・文化研究。京都大学経済学部卒。ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジPh.D(社会学)、MA(メディア&コミュニケーションズ)修了。特にポピュラー音楽や現代美術、メディアなど現代文化と都市空間の編成や社会運動をテーマに批評活動を行う。主な著書に「文化=政治 グローバリゼーション時代の空間叛乱」、「ストリートの思想 転換期としての1990年代」、「増補 ポピュラー音楽と資本主義」、編著に「アフター・テレビジョン・スタディーズ」など。

## TOKYO GEIDAI DIVERSITY SYMPOSIUM

2017年10月24日(火)18:00-21:00(開場17:30)  
会場: 東京藝術大学 上野校地 美術学部 第1講義室(中央棟1F)  
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

主催・お問い合わせ先: 東京藝術大学 ダイバーシティ推進室 [diversity@ml.geidai.ac.jp](mailto:diversity@ml.geidai.ac.jp) <http://diversity.geidai.ac.jp> 入場無料